

## 文教厚生常任委員会行政視察研修報告書

- 1 目的 所管事務調査先進地視察（行政視察）
- 2 実施日 令和7年11月12日（水）～14日（金）
- 3 観察地 高知県南国市  
香川県三豊市  
愛媛県四国中央市
- 4 観察内容 高知県南国市 「食育のまちづくりの学校給食」について  
香川県三豊市 「バイオマス資源化センターみとよ」について  
愛媛県四国中央市  
「子ども若者発達支援センター『Palette』」について
- 5 参加者 副委員長 角田 憲治  
委員 岡村 浩雅  
委員 永井 孝叔  
委員 手塚 定  
執行部職員 2名  
事務局職員 1名

---

### 高知県南国市 「食育のまちづくりの学校給食」について

視察日 令和7年11月12日（水）

#### 1 南国市の概要

県中央部にあり、高知市の東に隣接する県第2の都市。高知龍馬空港や高知自動車道・南国ICがあり、JR土讃線や土佐くろしお鉄道が通り、高知新港にも近いなど交通利便性が高い。農業ではピーマン、シットウなどの野菜の生産量が多く、早場米の産地もある。南国オフィスパークなどの企業団地も整備されている。土佐日記を著した紀貫之が国司として赴任した地。

人口 46,133人 面積 125.30km<sup>2</sup>  
議員定数 21人  
小学校 14校 児童数 2,289人  
中学校 6校 生徒数 968人

## 2 観察内容

南国市では「食育のまちづくり条例」を制定し、子どもたちの健やかな成長を支える食育の推進に取り組んでいる。地場産食材を活用した学校給食の提供や、生産者との交流体験を通じて作り手への理解や感謝を深める教育活動など、地域資源を活かした実践が行われ、文部科学省のモデル事業に採択されている。

「食育のまちづくり」を推進する市の先進的な学校給食の取り組みについて、今後の本市における食育政策や学校給食の充実に向けた施策の参考とする。

## 3 所感

南国市は「食育」を知育、德育、体育の基礎となるべきものと位置づけ、平成17年に食育のまちづくり宣言を行い全市を挙げて取り組んでいる。

さくら市でも推進している地場産米の使用、地場産品も積極的に行われ、幼稚園、小学校金額ベースで青果物に関しては南国市産目標27%に対し令和6年度27%で達成。全食材では小中学校金額ベースで高知県産目標60%に対し令和6年度56%と高い達成率である。また、地元生産者と連携した取り組みも積極的に行われ、古漬け用大根の栽培収穫体験も実施している。さくら市でも生涯学習課で農業体験を実施しているが、担当課横断（学校教育課、生涯学習課、農政課）で更なる充実を図ってもらいたい。

学校給食充実のため、家庭、地域への啓発活動も行われ、市広報紙での給食の紹介、SNSを利用しての給食の紹介など、保護者や一般市民向けにも学校給食をアピールしている。さくら市においても、新学校給食センターが稼働したことから、もっと学校給食についてもアピールして欲しい。

姉妹都市との食材交流を通じて姉妹都市の理解を深めている。さくら市も姉妹都市である、古河市、加須市との食材交流も推進すべきである。

最後に南国市でも学校給食センターは災害対応となっているが、災害時18,800食分の炊飯が可能で、常時1,880kgの米を備蓄している。さくら市においても米の備蓄は必要と考える。



南国市学校給食センター



研修の様子

# 香川県三豊市 「バイオマス資源化センターみとよ」について

視察日 令和7年11月13日（木）

## 1 三豊市の概要

県の西部に位置。北西部は瀬戸内海に面し、南東部は讃岐山脈を境に徳島県に接する。中央部には三豊平野が広がり、財田川などの河川が流れ、ため池が点在する。県内有数の農業地帯で、ぶどう・ミカンなどの果樹栽培や、ブロッコリー・キャベツなどの野菜、ブロイラー、鶏卵生産が盛ん。製造業では食料品製造の比重が高く、特に冷凍食品の生産が多い。

人口 61,407人 面積 222.69km<sup>2</sup>  
議員定数 22人

## 2 視察内容

三豊市は平成29年4月に「ごみを燃やさず、排水や臭気を出さない」可燃ごみ処理施設「バイオマス資源化センターみとよ」を民設民営方式で稼働させた。

この施設は「好気性発酵乾燥方式」を採用し、可燃ごみを微生物による力で発酵・乾燥させて「固体燃料」の原料として再資源化させている。

再資源化された「固体燃料」は、石炭の代替品として近隣製紙工場などのボイラ燃料として使用され、この効果で大幅なCO<sub>2</sub>の削減にも寄与している。

これまで焼却処理してきた可燃ごみが、微生物の力で環境に優しいエネルギーに生まれ変わる全国初の施設として、また、地域資源を活用した再生可能エネルギーの地産地消モデルの実例として、三豊市の取り組みを視察する。

## 3 所感

一般廃棄物を焼却処分している国で1位が日本である。三豊市は、ゴミ→燃やす→埋め立てるというサイクルに疑問を持ち、ゴミは燃やさない処理を原則に業者を選定した。

三豊市で採用する、好気性発酵乾燥方式は、

- ① 微生物を利用したリサイクル処理
- ② 形成された固体燃料は石炭の代わりになる
- ③ バイオフィルターで臭気を脱臭
- ④ 排水、煙、ダイオキシンが発生しない
- ⑤ 低コスト
- ⑥ 事故対応に優れている

といいことづくめの方式にも思える。

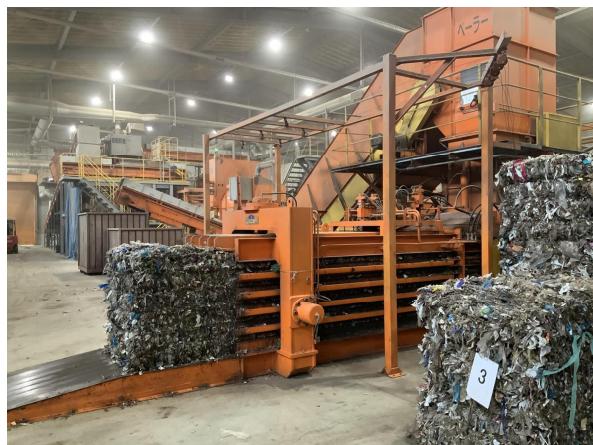
一方、

- ① 一般廃棄物処理施設の民設民営（会社倒産のリスク）
  - ② (株) エコマスターとの20年契約（複数年契約のための財務的な裏付け）
  - ③ 自然災害などのリスク
  - ④ ゴミ減量により固形燃料の減少
  - ⑤ 親会社であるエビス紙料（株）、（株）パブリックの存在  
(親会社で固形燃料製造、販売)
  - ⑥ 固形燃料の買取先の確保が必要
- といったデメリットも多く存在する。

ここ数年で2、3の自治体が導入を検討しているとのことで、そういった自治体も参考にしながら、塩谷広域での導入は要検討である。



好気性発酵乾燥方式の施設



可燃ごみからできた「固型燃料の原料」

## 愛媛県四国中央市 「子ども若者発達支援センター『Palette』」について

視察日 令和7年11月13日（木）

### 1 四国中央市の概要

県の東端に位置し、東は香川県と徳島県に、南は高知県に接する。四国縦貫自動車道と四国横断自動車道が交わる結節点にあり、四国4県のいずれの県庁所在地へアクセスできる距離。重要港湾・三島川之江港が海の玄関口。沿岸部は製紙・紙加工メーカーが集積し、大王製紙やユニ・チャームの本社・本店があり、紙製品出荷額全国1位の「紙関連産業都市」。

人口 82,202人 面積 421.24km<sup>2</sup>  
議員定数 22人

## 2 観察内容

四国中央市「こども若者発達支援センター愛称：パレット」を拠点として、地域における発達支援体制の先進事例を学ぶため視察を実施する。

同センターは、発達に課題を抱える子どもや若者、その保護者に対して、福祉・教育・医療の分野を横断した包括的な支援を行っており、相談支援、療育、訪問支援など多岐にわたる支援を展開している。

また、学校や保健・福祉機関との連携を通じて、地域全体での支援体制の構築に取り組んでいる点も特徴である。

視察においては、実際の支援内容や職員の体制、多職種連携の方法などについて学び、本市での支援体制の充実に向けた参考とする。

## 3 所感

人口約8万人の市で総工費約10億円の建物は立派であり、子ども・若者に特化し支援する仕組みには驚かされた。

専門職（保育士、言語聴覚士、作業療法士等）をほとんど市の職員として採用することで、支援の質が担保されている。また、発達に課題を抱える子どもへの対応が一貫してでき、サポートも手厚い。

しかし、年間の運営費が約2億5千万と高額で、市政運営に対する負担も大きい。

さくら市においては同規模の建物や同様の職員配置は難しいと思われるが、個別支援ファイル「さくらっこ」の活用により、各個人に寄り添った年齢での切れ目のない支援にはさらに力を入れて欲しい。



「小集団療育【児】」ルーム



研修の様子